



Medical management support by astellas

JULY 2021

疾患 Navigator : 糖尿病

治療と仕事の両立を支援するための企業向けガイドラインと 企業・医療機関連携マニュアルの疾患例に糖尿病等を追加

～退院後や治療再開を想定した事例など示す～

厚生労働省が、治療と仕事の両立支援の一環で作成・公表しているガイドラインが改訂され、例示している疾患に心疾患と糖尿病が追加されました。そのうち、糖尿病に関しては、ガイドラインの別冊として用意されている参考資料「企業・医療機関連携マニュアル」の中で、1型糖尿病、2型糖尿病それぞれについて、患者が治療と仕事の両立を目指すための取り組み事例が示されています。

2016年の作成以降、例示疾患の追加など 適宜改訂されてきたガイドラインと参考資料

治療と仕事の両立を支援するためには、企業だけでなく、産業医等の産業保健関係者や、医療関係者、地域の支援機関などによる取り組みが求められ、必要に応じた関係者の連携対応が重要だとされています。

そうした中、特に企業における取り組みを促進するためとして、厚生労働省は2016年2月に、企業向けのガイドラインとともに企業と医療機関との情報共有を図るための様式例を作成しました。その後、例示する疾患の追加など適宜改訂され、現在は2021年3月改訂版の「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」および参考資料としての別冊「企業・医療機関連携マニュアル」が用

意されています。

企業向けのガイドラインで、両立支援の進め方については、両立支援プランを検討するために必要な情報の内容や、患者の治療状況等に関する主治医からの情報収集、プランに盛り込むべき事項などを示しています。

糖尿病については背景等が異なる3パターンで「両立」を目指す事例を示す

企業・医療機関連携マニュアルでは、糖尿病患者に対する両立支援について、①教育入院を行う初期の2型糖尿病で、退院後の通院による治療との両立を目指す、②部署異動がきっかけで経口薬治療を中断していた2型糖尿病で、治療を再開し両立を目指す、③インスリン治療中の1型糖尿病で、交替制勤務を継続しながら、治療との両立を目指す——と

「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」の概要(目次紹介)

■目次■

- 1 治療と仕事の両立支援を巡る状況
- 2 治療と仕事の両立支援の位置づけと意義
- 3 治療と仕事の両立支援を行うに当たっての留意事項
- 4 両立支援を行うための環境整備(実施前の準備事項)
- 5 両立支援の進め方
- 6 特殊な場合の対応

■参考資料■

(様式例集)

- 勤務情報を主治医に提供する際の様式例
- 治療の状況や就業継続の可否等について主治医の意見を求める際の様式例
- 職場復帰の可否等について主治医の意見を求める際の様式例
- 両立支援プラン/職場復帰支援プランの作成例

(支援制度・機関)

- 治療と仕事の両立に関する支援制度・機関

(留意事項)

- がんに関する留意事項
- 脳卒中に関する留意事項
- 肝疾患に関する留意事項
- 難病に関する留意事項
- 心疾患に関する留意事項
- 糖尿病に関する留意事項

「企業・医療機関連携マニュアル」の概要(目次等紹介)

■目次■

- 企業・医療機関連携マニュアル(解説編)
- 企業・医療機関連携マニュアル(事例編)

【事例編:がん】

【事例編:脳卒中】

【事例編:肝疾患】

【事例編:難病】

【事例編:心疾患】

【事例編:糖尿病】

※マニュアルの改訂に伴い順次追加

事例の概要	糖尿病教育入院を行う初期の2型糖尿病で、退院後、通院による治療と仕事の両立を目指す事例	部署異動がきっかけで経口薬治療を中断していた2型糖尿病で、治療を再開し仕事の両立を目指す事例	インスリン治療中の1型糖尿病で、交替制勤務を継続しながら、治療と仕事の両立を目指す事例
年代性別	40歳代男性	50歳代男性	40歳代男性
治療の状況	2型糖尿病	2型糖尿病	1型糖尿病
治療	薬物療法(経口薬)	薬物療法(経口薬)	薬物療法(インスリン)
企業規模	中小企業	中小企業	大企業
職種等	正社員(建設会社作業員)	正社員(運送会社営業職)	正社員(製造業生産工程職)
産業医等	なし	嘱託産業医 保健師	専属産業医

(厚生労働省のホームページのコンテンツ「治療と仕事の両立について」(<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000115267.html>)内の「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」(<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/000780068.pdf>)および「企業・医療機関連携マニュアル」(<https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/000780069.pdf>)に基づいて加工・作成)

した3つの事例が取り上げられました。

これらの事例における主治医の意見書については、「入院が望ましいが、本人の希望もあり、外来通院での服薬治療継続とし、通院や時間外労働について職場の配慮を求める内容とし、使用している薬剤の効果や副作用について記載」(事例②)、「業務中の血糖の変化を確認するために、CGM(持続型血

糖測定)を用いる旨、シックデイや低血糖時の状態とその対応方法について記載。血糖測定、インスリン注射のタイミングや食事については本人に指導しているため、本人に確認してもらいたいことを記載し、運転前の血糖確認と、低血糖時の補食・再測定が必要であることも明記」(事例③)などとした作成例が紹介されています。

《発行》

アステラス製薬株式会社

東京都中央区日本橋本町2-5-1 〒103-8411

《内容についてのお問い合わせ先》

医療総研株式会社 (担当:田中 勝志)

東京都渋谷区渋谷1-7-5 青山セブンハイツ8F 〒151-0002
TEL.03-6451-1617